

# 税

平成20年度、中学生の「税についての作文」及び「税に関する高校生の作文」の入賞者は次のとおりです。なお、各学校へは全受賞作品の作文集が配布される予定です。

## 《中学生の「税についての作文」》

○南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞

「租税教育を通じて考えたこと」

二見中学校 二年 坂上 友理

○熊本県納税貯蓄組合連合会優秀賞

「私たちの税」

千丁中学校 三年 廣野真穂子

○八代税務署長賞

「税の大切さ」

第四中学校 一年 塘内 美通

○八代税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞

「私のアイスクリーム」

東陽中学校 三年 藤本みつぎ

○八代税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞

「税金が作った図書館」

第五中学校 一年 藤井 愛鈴

○八代税務署管内納税貯蓄組合連合会会長賞

「税の大切さを知って」

千丁中学校 三年 椎葉 将人

○社団法人八代地方法人協会会長賞

「税について考えたこと」

鏡 中学校 三年 山田 真子

○八代青色申告会連合会会長賞

「税について」

第三中学校 三年 田北 杏奈

○八代地区租税教育推進協議会会長賞

「僕の身の周りの税」

第一中学校 二年 松田 朋樹

## 《「税に関する高校生の作文」》

○国税庁長官賞

「そこかしこ、身近な所に税はある」

白百合学園高校 三年 松寺 亜衣

○八代税務署長賞  
「税の知識」

八代東高校 三年 平山 裕也

○八代税務署長賞

「日本の財政と高齢社会」

八代東高校 三年 谷川はづき

○八代税務署長賞

「税金問題について」

八代高校 一年 副島 彩加

## 租税教育を通じて考えたこと

二見中学校二年 坂上 友理



私達は一年生から租税の勉強をしている。昨年は税務署に見学に行き、税務署の職員や市の職員の方から話を聞くこともでき、他の教科では感じないものを感じることができた。

どうして中学生の私達が税金について勉強しなければならないのか最初はとまどったが、よく考えてみると、日本国憲法に国民の義務として納税の義務がちゃんと書いてあるからだ。中学生のときからこの守るべき義務について勉強しておくことは当然必要だと思っ

そして国民として義務を果たすためには、税金がどのように使われ、私達の生活に無くてはならないのかを知ることが大切だと思っ

税金の勉強を進めていく中で、種類が多いのに驚いた。種類がたくさんあるのは、それぞれ使われる目的があるからであり、また税金には直接税と間接税があり、さらに国税と地方税に分かれていることも知った。

最近、「ダム建設反対」、「無駄な道路は造るな」というテレビニュースをよく見ることが

ある。税金の勉強をするまでは何とも思わなかったが、これまで勉強をしてきて、反対する人々の理由のひとつには、税金を集める目的と使われ方の問題があるのだと思えるようになった。そしてこのようなニュースを見たときは、私も自分なりにいろいろと考えることができるようになった気がする。また「後

期高齢者医療保険」や「年金問題」は、最近特にニュースで話題になっている。これもやはり税金が使われている。祖父も今年七十五歳になる。私は祖父と後期高齢者医療保険制度について話をすることがあるが、保険料にしても税金にしても、公平に負担し、平等に使うということがどれだけ難しいことなのかを知ることができた。

税金の中では収入が無くても負担しなければならぬ税金もある。私達中学生でさえ払っている税金、「消費税」。私が小学生の頃は、ひとりで買物するとき、表示してある金額に五パーセントを掛けて払っていたが、最近は消費税も含めて表示されるようになった。この消費税も何パーセントにするかよく話題になっている。所得が低い人たちをどうするかとても難しいと思う。

市役所で八年間、税金を徴収する仕事をしてきた父が言っていたが、税金を払うことができるのに払わない人もいるという。ちゃんと払っている人からすれば許せないことだと思っ

思う。でも、こんな人たちには、給料や預金などを差し押さえるのだそうだ。義務を果たさない人には当然だと思っ

# 広告

## そこが「こい」、身近な所に税はある

八代白百合学園高校三年 松寺 亜衣



少し想像してみて下さい。火事が起きても消防車がない。急病人が出て救急車がない。ゴミがたまってもゴミ収集車がない。そんな生活が、果たして考えられるでしょうか。しかし、私たちが「税金」を納めていなければ、実際、このような恐ろしい生活になってしまうのです。これらの例は、ほんの一部にしか過ぎません。私たちが税金を負担する理由—それは、「人々が安心して生活するため」というのが第一の理由ではないでしょうか。このように言えるのは、17歳になり、大人の階段を登るにつけ、社会に対し、少なからず、関心を持つようになったからかもしれません。以前の私は、税金について、全く関心がなく、興味すらありませんでした。「税金って何。何故、消費税を納めなければならぬの?」と、疑問の連続でした。正直なところ、税金は、私にとって「負」のイメージしかなかったのです。しかし、新聞やテレビ、学校の授業を通して、自ら学び、考えることで、税金の意味を徐々に理解出来るようになってきました。

現在、日本は様々な問題を抱えています。その中でも、特に、少子高齢化は、すさまじい勢いで進行しており、2050年には、国民の三人に一人が、65歳以上の高齢者という「超高齢社会」が到来すると予想されています。将来、高齢者一人を1.4人で支えなければならぬ我が国は、税金に対する考えを、国全体で見直すべき時期であると言えます。一

方、他国には、将来のことを見据えた上で、税を使っている国があります。

まず、福祉大国のスウェーデンは、世界でも税負担が非常に高いことで有名です。日本の消費税5パーセントに対し、スウェーデンはなんと、その5倍の25パーセントです。もし、日本で、消費税が25パーセントにまで上がると、おそらく、多くの国民が不満を口にするとでしょう。しかし、スウェーデンの人々はそれとは違います。それは、何故か、スウェーデンの人々の中で、税金の使い道が「国民のため」とはつきり自覚されているからです。このような国だからこそ、福祉が、より、他の国より充実していると言えます。それに比べ、日本人は税金の使途に対し、関心を持っているとは言い難いのです。このような状況では、国民が「増税」に対して、反対するのは無理からぬことでしょう。もともと、国民は、自分たちが払う税金に対し、関心を寄せるべきです。一人ひとりの税金は、様々な形で、国や私たちの生活に役立っているのですから・・・。

何より、私自身も、税金に支えられ生きていく一人です。毎日、私が利用する「肥薩おれんじ鉄道」は赤字続きで、今後の経営が心配されています。しかし、自宅から学校まで、約40分の時間を要する私にとっては、唯一の通学手段なのです。そんな「おれんじ鉄道」も税金なしでは動きません。小・中学校で使っている教科書も同じです。税金がなければ私たちは、十分な教育を受けることはできません。今、このように、当たり前のように教科書を使い、勉強できる環境が整っているのは、税金のおかげだと言っても過言はありません。税金は取られるためにあるのではなく、私たちに恩恵を与えるためにあるものなのです。余りにも、至る所で使われ、当然のように、そこかしこにあるために私たちが気付いていない

だけなのです。私たちは税金のありがたさをもっと、感じて生活していくべきだと思います。税のありがたさを知ることが、未納税者が減ることにも繋がります。そうすることで、日本は、今よりも、もっと豊かで、幸せな生活を送ることが出来るはずです。

現在の私は、まだ「消費税」しか納めていません。しかし、その5パーセントの消費税が、何らかの形で役に立っていることを知り、少し誇らしげな気持ちになりました。これから、大人になる数年後には様々な税を納める義務が生じます。しかし、それは、一人の大人として、社会の一員として、当然のことなのです。私の納めた税金が、今日もどこかで、世界や、そして、日本のどこかで使われているのだとしたら、税を納めるのは苦痛ではありません。

仮に、「税」を別の表現に置き換えると、部活動でいう「部費」ではないでしょうか。テレビで白熱した試合を展開し、私たちに感動を与える高校球児でさえ、部員全員が、きちんと部費を納める義務があります。部費を納めているからこそ、整った環境で、練習に打ち込め、甲子園という輝かしい夢の舞台を手に入れることができるのです。そう、私たち一人ひとりが税を納めること—それは、私たち自身が安定した、豊かな世界を築くことに繋がっていくのです。

### 問合せ

市民税課 ☎ 33-4107  
市民課 ☎ 33-4110  
各支所市民環境課  
八代税務署 ☎ 32-3141

手続の詳細やご質問については e-Tax ホームページへ  
e-Tax ホームページ  
(<http://www.e-tax.nta.go.jp>)  
※メールや電話での質問も受け付けています。

# 広告